

感染拡大防止

2020. 7. 22

新型コロナウイルスをきっかけにして、今世の中は大きく変わろうとしている。これからどのような世界が訪れるのか、その答えは誰にも分からない。本当に先を見通す人たちは、数か月前まで私たちが住んでいた社会には、もう戻ることはできないし、同じような生活はできないだろうと言っている。

しかし、そういう見通しのつかない混沌とした時代にあっても決して変わることはない真理がある。それは人間には生き続けるための命が与えられており、与えられた命をどこまでも大切にしなければいけないということである。

自分一人の命を大切にすることではない。人間同士が協力し合い、お互いの命を大切に育む生き方を学び、実践しなくてはならない。今この時は、特にそのことが強く求められている。

現在、多くの医療関係者がウイルスに罹患した人たちを救うために寝食を忘れて命がけで取り組んでいるのも、人々が窮屈なステイホーム、外出自粛に協力するのも、この努力を続けていたら光明が見えることを知っているからである。

このような混沌とした時期は気持ちも塞ぎがちになるものだが、マイナスの思考に引っかかると、ますます暗闇の中に落ち込んでしまう。今は世界中が一丸となって、お互いの国や人を大事にしながら光明を目指さなければならないときである。

「神様は人間一人ひとりにラブレターを刻んでくれる」という言葉がある。自分に与えられた使命を自覚して、その使命に向かって歩いていく。そのために自分に与えられた能力を生かしていけたら理想である。

しかし、それは決して華々しいものではないかもしれない。身近な人の手助けをする、相手の心が優しくなる温かい挨拶をする、という些細なものであったとしても、人々が自分に与えられた場で人生を輝かせ、その使命に向かって生きるとき、素晴らしい未来がひらけてくるのではなかろうか。

シンクロシティ (Synchronicity) という言葉がある。別々の場所にいる複数の人たちが同じ時に同じことを考え、発言、行動することを指す言葉である。ユングが提唱した概念で「意味のある偶然の一致」を指し、日本語では「共時性」「同時性」などと訳される。これは「前に進みなさい」という、その人を後押しする出来事だとされている。ちなみに、乃木坂46の歌に「シンクロシティ」というものがある。

梁川高校では、本日をもって第1学期を終了し、明日から例年よりも短めの夏休みに入る。この1学期は、改めて梁川高校の教育とは何か、本校の使命は何かを考える機会となった。臨時休業期間の影響が全くなかったとは言えないのは事実である。だが、梁川高校の教育が揺らぐことはなかったのもまた事実である。本校教育の根幹は、そう弱くはないことが分かった。

「感染拡大防止」という標題を目にしても、誰も驚かないし、もうすっかり見慣れてしまっていることだろう。4月、5月は、まだ「感染防止」という流れだったと思う。それが今は、「感染の拡大を防止する」というスタンスに変わってきている。新しい生活様式、学校の新しい生活様式も同様のスタンスであろう。with コロナ、コロナとの共存である。

8月18日(火)から第2学期が始まる。学校の新しい生活様式は何も変わらない。今まで取り組んできたことを、さらに徹底していくのみである。それが感染の拡大を防止することにつながる。